

「高校生の声を国会議員に届けよう！2026」 みんなの意見まとめ

2026 年 7 月

セーブ・ザ・チルドレンは、2026 年 5 月 16 日～17 日に「高校生の声を国会議員に届けよう！～お金の不安なくまなぶには？高校生同士のワークショップ～」を実施しました。

本まとめには、参加した高校生による意見と、ワークショップには参加できなかったものの個別に意見をまとめて国会議員との意見交換会に参加する高校生の意見を掲載しています。名前は本人が決めたニックネーム、学年は参加時の学年です（掲載は、ニックネームの五十音順）。

● あーさん（高1）

「通信制高校への支援額の拡大」、「塾代・予備校代の援助」、「給付型の奨学金を増やす」

私は私立の通信制高校に通っています。調べてみたところ、就学支援金や高校生等奨学給付金はあるみたいですがコース料金とかパソコンなどの教材費、サポート校の費用、スクーリング代、入学費、あと設備費とかその他諸々いろいろかかる費用が結構多くて、就学支援金と高校生等奨学給付金だけだと負担がまだ大きいなと思っているので、通信制への支援の額を拡大してほしいというのがまず1つ目です。

私の場合は、芸術系の進路に進みたいなと思っているんですが、そのために、絵画予備校に通って頑張っている最中なんです。でもその月謝を払うのが厳しくなってきました…。他にも模試の過去問や参考書や画材などいろいろ買いたいものがありますが、今、思うように買えていない状況です。バイトしないと厳しいかなと思っていますが、本来はその時間も受験の対策に使いたいなと思っています、そのへんが難しいところだと思っています。塾代とか予備校代とか、交通費、教材費などへの援助を拡大してほしいというのが2つ目。

3つ目が奨学金についてなんですけど、JASSO や自治体のもの、高校・大学の特待生制度とかほかにもいろいろ奨学金の制度があるみたいなんですけど、それでも枠が足りていない・条件が厳しいなと感じています。借りて返すやつだとどうしても返せるかどうかの心配が残るので、給付型の奨学金の枠を増やしてほしいなと思っています。

● しょう（高3）

「入学一時金が高すぎる！留学しやすい環境づくり」

まず大学入学一時金が高すぎる。

受験料だけでも数万円。受かった大学をキープするだけなのに、2,30 万円は高すぎる。自分の家にとっても、2～3 か月分くらいの食費になる。高い！一つ目の大学に受かった時に、その大学に一時

金を払ったあと、2つ目の大学に合格して入学金を払うと、一つ目に払った時の金額が無駄になる。国立大学に受かったとしたら、私立分が無駄になってしまう。

それはおかしいし、しんどい。普通に入学しない大学に払うのはおかしい。それだけかかることを親には伝えづらい。どの大学がいつ納付期限なのか、すべて個人で調べるのは大変なので、まとめてホームページなどに一覧があるといい。調べたうえで、国立大学よりも後に入学金支払の期限があればそこを受けるし、逆に国公立の前に納入期限があればその大学は受けないようにする。生活費とか資格とか、欲しいものを買ったり、もっと良いことに回したい。

また、自分は将来留学したいと思っているが、物価が高い地域や国で勉強したいことがあると、授業料だけではなく生活費もかさむ。自分は「トビタテ！留学 JAPAN」を受けたことがあって、自分が行きたかった国や期間は、留学費用を半分くらい負担してくるというものだった。でも、トビタテ留学！には落ちてしまった。もし受かっていたら、80万円の留学費用が40万円になったので、それでも負担は大きいけど、家計には助かる。能力の高い人から決まっていくのは分かるが、そうじゃない受験生でも、自分も家計のことが心配で全額負担だと留学は難しいので、少しでも支援があるとよかった。

トビタテ留学！の時には、TOEIC、英検、IELTSなどの資格があった方が有利で、そういった資格をたくさん受けられた人もいたけれど、試験代が厳しくて自分はあまり受験することができなかった。今受験料が1万円くらいなので、もう少しその費用が安くなると受けやすくなると思う。

● せな（高1）

「全国の公立高校に食堂を！」

私は、全国の公立高校に食堂を作ってほしいなと思います。

公立高校でも、県によって食堂があるところとないところがあります。母は数年前から医者に仕事を止められていて、朝早くからお弁当を作ってくれと、体調面でも心配になってしまうので、食堂を作ってほしいなと思います。少しお金はかかると思うのですが、ちょっと高くなってもお母さんの負担が少なくなるならいいなと思っています。

私の学校では週に何回かパン販売があるのですが、お腹いっぱいにならなくて、お弁当と必ずセットになってしまいます。食堂があることで、母の負担が少しでも減ると、私は思っています。お弁当の材料食費が高くて、毎朝早く起きてお弁当を作ってくれるけど、家にある少しの食材だと毎日同じ感じの食材が並んでいます。だから、公立高校にも食堂を作ってほしいなと思いました。

● とわ（高1）

「高校教育は義務教育でなくとも、必要な教育」

高校教育は義務教育ではないですが、現代社会では当然のように必要とされています。それなのに、教材費や修学旅行費など、多額の費用を払っています。せっかく行きたい高校を見つけても、金銭的な理由から断念せざるを得ない状況に陥ってしまう事例も多々あります。

私の場合は、好きな運動部があったのですが、金銭的な理由からその部活に入らずに別の部活に妥協して入ることにしました。

もしかしたら諦めてしまった人の中に才能の原石が眠っているかもしれません。つまり社会は自ら欲していた新芽を摘んでしまっているということです。それは社会にとっても良くないと思います。本当に入りたい部活には入れなかったけど良い成績を残すなどできるかは、これから僕が証明したいと思います。

そこで、高校で必要となる費用一切を無償化に、願わくば義務教育化してほしいと思います。僕は、「高校教育は義務教育でなくとも必要な教育」をテーマにしましたが、本当は義務教育になることが望ましいと思います。そうするためには、現在の状況は難しく複雑化していると思います。今後の社会を豊かにするとともに、子どもたちがやりたいことを自由にできるように、今後、国にはそのことについて考えて欲しいと思います。

● H（高1）

「地域や国で給付型の安定した高校の奨学金を！」

高校の奨学金について、民間の奨学金は安定しないので、地域や国で付与型の安定して奨学金をもらえる制度をつくってほしいです！

私は今まで民間の奨学金を2つ借りていて、片方が中学校から高校に上がる際に切れてしまいました。今は申請し直していますが、またもらえるかはわかりません。入学の際には、奨学金は制服や教科書代に使用し、これからは検定取得などに使用したいです。ですが、奨学金が切れてしまうと不安になるので、安定してもらえる制度を国や地域でつくってほしいです。

● まーちゃん（高3）

「地域差がムカつく！」

私は、東京とか神奈川における子どもの教育支援、特に留学支援制度の地域差について話したいと思います。

私は海外で学びたい、世界を見てみたいと思っていたのですが、海外留学用の給付型奨学金が自分の自治体に少なく、あきらめざるを得なかったというところで住んでいる地域によって挑戦しや

すさが変わってしまうという現状に疑問を感じています。

現在、日本には「トビタテ！留学 JAPAN」のような留学向けの支援制度があるのですが、応募人数に対して採用枠が少なく、支援を受けられる人が限られています。そのため多くの学生は自治体や学校独自の制度に頼ることになります。例えば、東京都では、国際交流や海外研修への支援とかグローバル人材育成に関する制度が比較的充実しています。一方で、神奈川県では、学校や地域によって支援の差が大きく、制度自体を知らないまま終わってしまうケースもあります。

私は、実体験として、自分の学校が東京にあるのですが、でも親が住んでいるのが神奈川というだけで自分が使いたかった制度が使えないということがありました。なので、同じように海外で学びたいという風に気持ちを持っていたとしても、住んでいる地域によって得られる情報だったりチャンスに差が生まれている現状があります。

私の考えとして、挑戦する機会というのは誰にでも平等にあるべきだと思います。実際、留学とか海外研修には交通費や渡航費、滞在費など多くの費用が必要です。そのため、制度が十分でない地域では、行きたいけど行けないと諦めてしまう学生も少なくありません。また、支援制度があっても情報が届いていなくて、それを知らなくて行けないという子がいると思います。なので、知っていた人だけが挑戦できるというのも大きな課題だと思っています。

提案として、私は、主に3つあるのですが、進めていただきたいと考えています。

1つ目は、地域ごとの教育支援の差を減らすことです。どこに住んでいても、同じように海外への留学が挑戦できるような環境づくりが必要だと考えています。

2つ目は、留学支援制度の枠を増やすことです。やる気のある学生が経済的な理由とか倍率の高さで諦めなくてすむ社会にしてほしいと思っています。

3つ目は、学校を通じた情報発信を強化することです。制度を知らなかったことで挑戦の機会を失う子どもを減らしていくべきだと思います。

最後に、私たちの子どもの未来は、どこに住んでいるかで決まるべきではないと思います。誰もが平等に学び、挑戦できる社会を実現するために、教育支援の充実をお願いしたいです。

● まっつん（高3）

「お金が理由で夢をあきらめる社会ではなく、努力したい人が『しっかり』学べる社会に！」

自分は、お金のために夢をあきらめる社会ではなく、努力したい人がしっかり学べる社会にしてほしいと思いました。

個々の家庭や地域差で収入や物価が違ったりすると、子どもがその環境のせいで夢や、やりたい事をがまんしなければいけないことがあります。

私も、小学校のころから歴史の学者になるのが夢で、いっぱい勉強に力を入れていましたが、ひとり親で経済的に厳しい私に対していじめめる人がたくさんいました。自分の母は病気になったり、体調・精神的に辛い時も応援してくれました。

高校へ入る際も、修学旅行にお金がかかるとい、修学旅行がない高校に進学したりと進路の面でも工夫をしました。

それでも、学費以外（交通費や勉強道具）や資格取得のための受験料などにお金が必要で、頑張ってもお金の壁のせいで諦めることがいっぱいありました。高校 3 年生になって大学進学を考えた時に地方に住んでいると、都会よりも進学の実選肢が少なかったり、通学や一人暮らしの費用がかかったりします。地域による差をなくすのも大事だと思うのですが、一番は「学びたい」という気持ちを大切にしてほしいです。

子どもと親、両者が希望しても諦めなければいけないのではなく、子と親の両者が幸せになる未来がすぐそこにあります。

子どもに関わる親の負担を軽くするため、セーブ・ザ・チルドレンがやっている「高校生活まなびサポート」のような毎月給付型の給付金を、国から「学びたい」という気持ちを持つ子どもだけではなく、ひとり親など経済的に苦しい人に対してわたしてあげてほしいです。

高校生は、まだ社会を変える力はとても小さいかもしれないけど、絶対にこれからの日本をつくっていく世代だからこそ、お金の心配をせずに学べる環境を整えることは、未来への投資だと思います。

● みい（高卒生）

「家庭の状況や事情に左右されずに進路を選ぶためにお金や支援制度について学ぶ機会を！」

私は、ひとり親家庭で生活しながら定時制高校に通うという実体験から、生徒がお金について学べる環境をもっと充実させてほしいと考えました。

実際に、お金の問題やきょうだいのこともあって進路のことについて悩んだ経験があります。進学したい気持ちはあっても学費や生活費の不安、さらに家庭の中でのきょうだいの生活、進路とのバランスを考える必要があり、自分の将来だけを優先して決めることが難しいと感じました。

ひとり親家庭の中には、保護者が仕事と家事を一人で担っているため、経済的にも時間的にも余裕が少ない家庭があります。その中で、定時制高校に通う生徒はアルバイトで家計を支えながら学んでいる場合も多く、進学や将来の選選をお金の不安から諦めてしまうこともあります。また、給付型奨学金や支援制度があっても、情報が十分に届かず、知らないまま進路の幅を狭めてしまうことが実際にありました。だからこそ、定時制高校でのお金に関する知識や、ひとり親家庭向けの支援制度について学べる機会を増やしてほしいです。お金の勉強は将来のためではなく、家庭の状況や家族の事情に左右されずに進路を学ぶために必要だと思います。また、相談できる窓口や支援の情報をもっとわかりやすく届けてほしいです。

● みお（高3）

「高校生等奨学給付金の金額を上げてほしい」

私の通っている学校は私立ですが、月々の授業料も高く、修学旅行代、食堂も値上がりしてきていて、制服代も高いです。調べたところ国の奨学給付金は、非課税世帯だと年約15万円で、所得の幅によっては年額3万円です。いくら親の収入があっても、学校に必要なもので消えていっちゃって、自分の好きな物も親の好きな物も買えなくなってしまいます。

給付金があるのはとてもありがたいことですが、足りないと思うので、上げてほしいなと思いました。

私の修学旅行の話になっちゃうのですが、15万円くらいしちゃって、どう考えても給付金だけでは足りないと思うので、ちょっと上げてほしい、今の金額ではなくて、金額を考え直してほしいなと思いました。

● ゆな（高2）

「ハイレベルな無料塾求む！」

私は、塾に行きたいと思ったんですが、経済的な理由から小学生の頃から無料塾を利用して、無料で学べる環境があることはすごく助かっていて勉強を続けるきっかけにもなっていました。ですが、学年が上がって勉強の内容が難しくなるにつれて教えられる人が少なくなっていくのを感じました。

特に、レベルの高い高校の問題や英検対策になると、対応できる人がほとんどいなくて、十分に学ぶことが難しいと感じました。英検対策の専門塾もあるのですが、費用が高くて通いたくても通えない人は結構多いと思います。

塾に通えるかどうかで、得られる情報量とか勉強時間、受験への準備に差が出てしまうし、特に推薦入試とか大学受験では英検とかTOEICとかの資格が重要になることも多くて、経済的な理由で十分な対策ができないのは不公平だと思います。なので、レベルの高い内容まで継続して学べる無料塾を増やしたり、普通の塾とか専門塾に少ない負担で通える補助制度をもっと充実させてほしいです。

高校無償化は進んでいますが、実際にはレベルの高い高校や大学を目指すために結局塾へ通う人が多いので、教育費の差がそのまま教育格差につながっていると感じました。学校の授業だけでは補いきれない部分を、家庭の経済状況によって受けられるサポートに差が出てしまうのは改善が必要だと思います。

東京とかには学習支援制度とか充実している地域もあると思うんですが、横浜とかはめっちゃそんなに多いとかは感じないので、住んでいる地域によって受けられる支援に差があるのは問題だと思います。

家庭の経済状況や住んでいる場所に関係なく、勉強したい人がしっかり学べる環境を整えてほしい

なと思いました。

● らいらい（高2）

「学びたい、食べたい、その願いを諦めなくてよい社会へ — 子どもの可能性と夢や希望が家庭環境によって左右されないために —」

みなさんは、「やりたいことがあるのにできない」「努力したいのに、その機会がない」と感じたことはあるでしょうか。

私はあります。そして、その理由は能力や努力不足ではなく、家庭の経済状況でした。私はこれまで、やってみたいことがあっても諦めなければならないことがありました。例えば、塾に通うことです。また、音楽教室などの習い事にも興味がありました。しかし、どちらも簡単に選べるものではありませんでした。やりたいという気持ちがあっても、お金がかかるという理由だけで諦めなければならないことがあります。周りの友達が新しいことに挑戦したり、自分の好きなことを伸ばしたりしている姿を見ると、応援したい気持ちと同時に、「自分も挑戦してみたかった」という思いが心に残ります。

また、食事についても同じです。多くの人にとって、一日三食食べることは当たり前かもしれませんが。しかし私は、ご飯を食べたいと思っていても、一食我慢しなければならないことがあります。時には二食食べられないこともあります。空腹は、ただお腹が空くだけではありません。勉強への集中力を奪い、前向きな気持ちまで少しずつ失わせていきます。さらに、友達から遊びに誘われても、お金のことを考えて断らなければならないことがあります。本当は行きたい。本当は同じ時間を共有したい。でも行けない。そのような経験を重ねると、自分だけが周りから取り残されているような気持ちになることがあります。

私は特別な賛成を求めているわけではありません。お腹が空いたらご飯を食べられること。学びたいと思ったときに学べること。やりたいことに挑戦できること。友達と同じように経験を積めること。私は、それらは子どもたちにとって当たり前に保障されるべき環境だと思います。しかし現実には、家庭の経済状況によって、その当たり前が失われてしまうことがあります。私は、この問題を単なるお金の問題として考えてほしくありません。なぜなら、失われているのはお金だけではないからです。失われているのは、学ぶ機会です。挑戦する機会です。人とのつながりです。そして、自分の未来に希望を持つ機会です。子どもたちは、自分が生まれる家庭を選ぶことはできません。だからこそ、家庭環境によって将来の選択肢や可能性が狭められてしまう社会であってはならないと思います。

私は国会議員のみなさんにお願いがあります。支援を必要としている非課税世帯や経済的に厳しい家庭の子どもたちへ、より確実に支援が届く仕組みを整えてください。また、寄付や支援の輪がさらに広がり、多くの人が社会全体で子どもたちを支えられる環境をつくってください。それは単に

生活を支えるためだけではなく、子どもたちの未来を支えるためです。夢を支えるためです。可能性を支えるためです。私は、子どもたちの未来が生まれ育った環境によって決まる社会ではなく、自分の努力や挑戦によって切り開ける社会を望んでいます。学びたい。食べたい。挑戦したい。その当たり前前をの願いを、誰も諦めなくてよい社会を実現してください。どうか、私たち子どもの声を未来につなげてください。

● リお（高3）

「授業料以外も支援してほしい」

既に授業料の支援は所得の制限もなく、私立の高校も支援があるような状態だと思います。ですが、実際に、例えば私の高校だと、年度の初めに払うお金が授業料のほかに施設費とか維持費、諸経費みたいなものがいろいろかかって、授業料が15万円ぐらいなのに、そのような他の費用も合わせると合計で60万円ぐらいになっちゃいました。そこに書いてない制服代とか、部活に入るなら部費とか、そういうのもいろいろあるのに、奨学給付金の金額だけだとほんとに足りていないと思います…。

奨学金の金額を増やすなどして、授業以外に使えるお金も増やしていただきたいなと思っています。

● リりちゃん（高2）

「児童扶養手当の大学卒業までの拡充」「大学生までの医療費無料」「親子が一緒にいられる環境を」

私がお願いしたいのは3つあります。

1つ目は、ひとり親手当を高校卒業までではなく大学卒業までに延ばしてほしいということ、2つ目は、医療費無料を高校までではなく大学生まで延ばしてほしいというのがあります。

ひとり親手当を大学卒業まで延ばしてもらえると、バイトに邁進して勉強をおろそかにしなくても済む、また、家計を助けなくてもいい、ということで不安なく学ぶことできるのが1つの理由です。その学びが知識や教養となり、卒業後、学んだ結果を国に還元できるというのがあります。

2つ目の医療費無償化は、自分が勉強やアルバイトをちょっと無理しても頑張りたい時に頑張れることにつながると思います。というのも、医療費が高いからと家庭への負担を気にして不安を抱えてブレーキをかけるのではなく、国が支援してくれているから安心して頑張ろう！というアクセルになればいいなと思っています。その一歩を踏み出すための背中を押す一つになる気がしています。

3つ目の親子が一緒にいられる環境について、「ベビーシッターと家事の支援サービスの利用者の税負担を軽減する」などが国の政策のひとつとして挙がっていますが、ベビーシッターを雇わなければならない、共働きをしなくてはならない環境ではなく、お母さんが近くにいてくれる、親子が一緒にいられる環境の実現を考えてほしいなと思っています。